

# Miu-t's Talk 学習評価について-その①

2022/7/8

学習評価……テスト結果や通信簿を何度も手にしてきた大人の感覚だと、その結果(いわゆる“成績”)がどうしても気になってしまいます。でも本来、学習評価というのは次のような考え方に基づいて進められています。以下、ポイントをまとめてお知らせします。

★図表等引用元: 国立政策研究所『学習評価の在り方ハンドブック』(2019)→



## ● まずは“思い込み”からの解放を図る

(学習)評価というと、どうしても“テスト”とか“成績”とか“通信簿”なんていう言葉を連想してしまうと思います。中学校だったらこれに“内申書”とか“入試”などが加わるかもしれません。またこれらの言葉とセットで、成績を“つける”とか成績が“あがる”“落ちる”というような言い方も普通にされるようになっていきます。

確かに、終業式にもらってくる通信簿の成績に一喜一憂したり、それが転記された調査書で進学先が大方決まったりしてしまうような原体験を持

ったオトナたちにしてみれば、それが学校生活文化の一つになってしまっていて、そう簡単に拭い去ることはできないのかも知れません。

文部科学省はそういう思い込みから国民を解放して、“未来に通用”する学校教育にシフトさせなければいけない、という思いを常に抱いてきました。それをカタチにするための方策の拠り所になるのが、令和2年度から始まった新しい学習指導要領です。学習評価もまたこれと連動して刷新されることになりました。

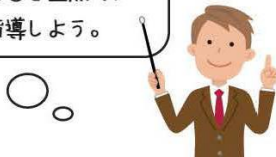
## ● 令和2年度の改善点

学習評価は、学習指導要領で定められた資質・能力が児童に確実に育成されているか、という学習状況を評価するものです。

「そんなの当たり前じゃないか」と思われるかもしれませんが、本当の目的はあまりきちんと理解されていません。学習評価は大きく分けて次の2つのことに生かされます。

### ① 教師が指導の改善につなげる

次の授業では  
〇〇を重点的に  
指導しよう。

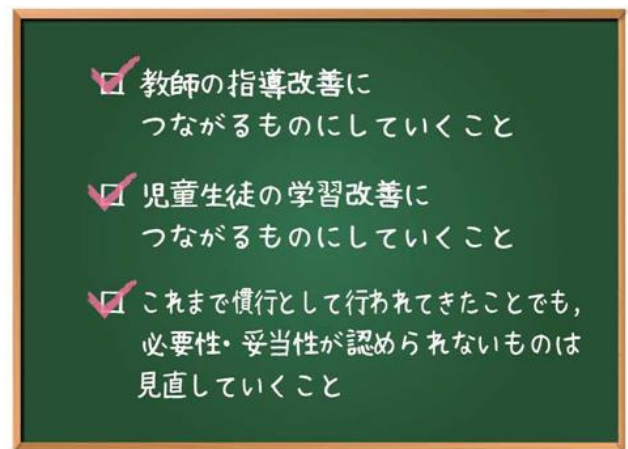


### ② 児童の学習改善につなげる

〇〇のところは  
もっと～した方が  
よいですね。



このように改めて示してもなお、「当たり前のこと」と思われるかもしれません。でも、新しい学習指導要領のもとでは、この当たり前みたいなことが、様々な反省を踏まえて、改めて強調されることになったのです。



上の“黒板”の3つ目は、教員の働き方改革の視点から「勤務負担軽減」を図ることと併せて、学習評価をこれまで以上に“実(じつ)”の伴ったものにするということを示しています。

## ● 学習評価の基本構造

ちょっと難しくなってしまいますが、以下は教員向けの『学習評価ハンドブック』からほぼ、そのまま転載します。

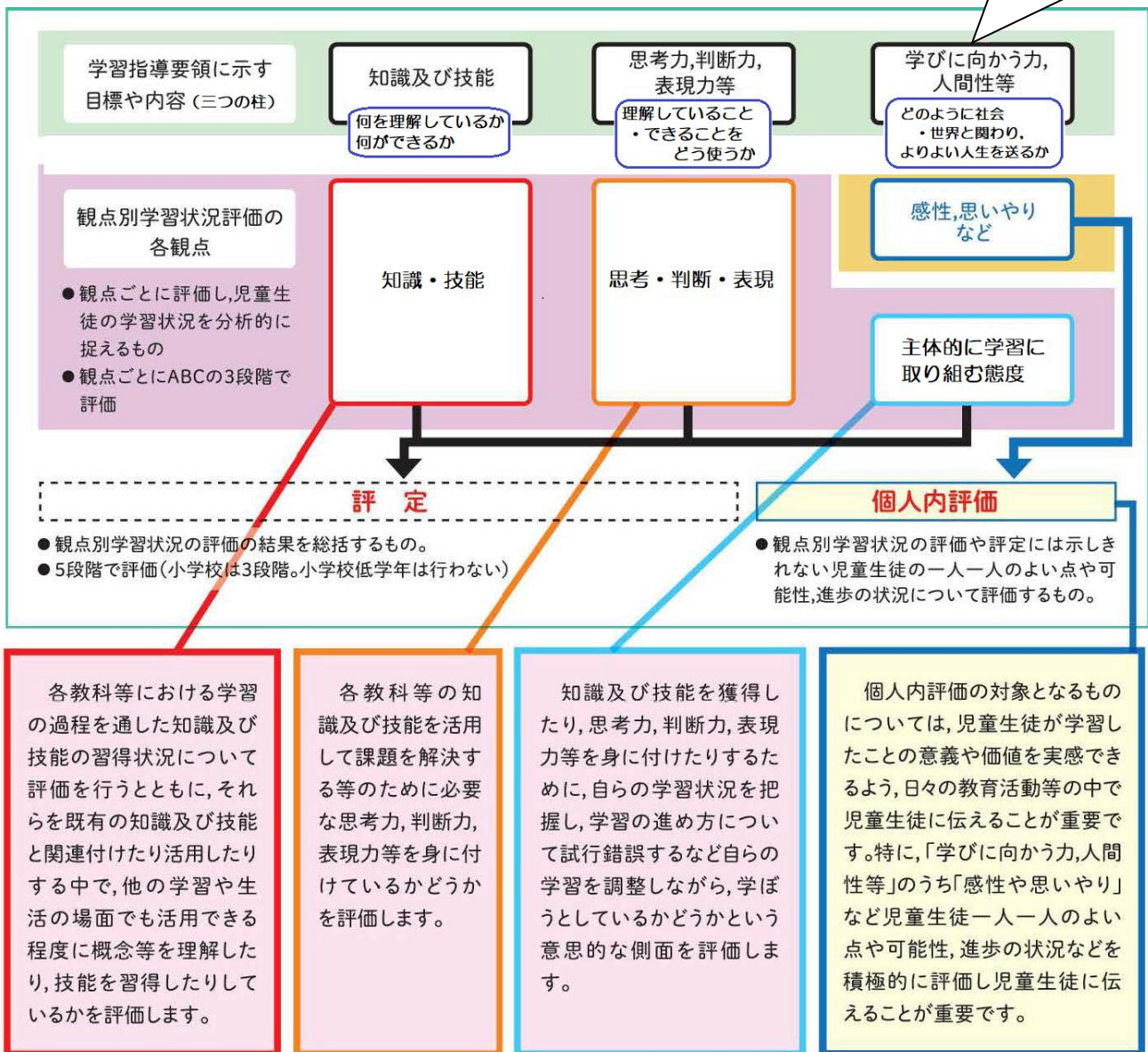
まずはじめに……新学習指導要領では、目標と内容が資質・能力の3つの柱で再整理されました。これに伴って、教科ごとの評価の観点も「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つに整理されています。

★教科ごとの「観点等及びその趣旨」はWebで→  
指導要録の改善通知(『3.29 通知』より  
(「別紙一覧」のうちの〔別紙4〕)



「学びに向かう力、人間性等」には  
① 「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができる部分と、  
② 観点別評価や評価にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。

### 【各教科の評価】



令和元年度までは評価の観点が4つでした。でも、国語は5つ、生活科は2つ。このことからわかるように、以前は各教科の“お家の事情”が先にあって、学習評価のための観点は後付けのような

形になっていました。それが今期は学習指導要領改訂の段階から学習評価も念頭に置く形で整理され、すべての教科の観点が3つにそろいました。

3つの観点については、あとで詳しく触れます。

【道徳, 外国語, 総合, 特活の評価】

特別の教科道徳, 外国語活動 (小学校のみ), 総合的な学習の時間, 特別活動についても, 学習指導要領で示したそれぞれの目標や特質に応じて評価します。

特別の教科道徳(道徳科)

児童の人格そのものに働きかけ, 道徳性を養うことを目標とする道徳科の評価は, 普通の教科とは違い, 観点別評価はなじみません。授業で児童に考えさせることを明確にして, 「道徳的諸価値についての理解を基に, 自己を見つめ, 物事を (広い視野から) 多面的・多角的に考え, 自己の (人間としての) 生き方についての考えを深める」という, 児童の具体的な取組状況を, 学習活動全体を通して見取ります。

外国語活動(1~4年生のみ。5・6年生は「外国語科」で学習)

評価の観点については, 学習指導要領に示す「目標」を踏まえ, 下の表を参考に設定することとしています。この3つの観点 (市教育委員会が設定) に則して児童の学習状況を見取ります。1・2年生については横須賀市独自の取組になります。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>●外国語を通して, 言語や文化について体験的に理解を深めている。</li> <li>●日本語と外国語の音声の違い等に気付いている。</li> <li>●外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。</li> </ul>	<p>身近で簡単な事柄について, 外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。</p>	<p>外国語を通して, 言語やその背景にある文化に対する理解を深め, 相手に配慮しながら, 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>

総合的な学習の時間

評価の観点については, 学習指導要領に示す「目標」を踏まえて定めた目標, 内容に基づいて, 本校では以下のように定めています。この3つの観点に則して児童の学習状況を見取ります。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>探究的な学習の過程において, 課題の解決に必要な知識や技能を身に付け, 課題に関わる概念を形成し, 探究的な学習のよさを理解している。</p>	<p>実社会や実生活の中から問いを見だし, 自分で課題を立て, 情報を集め, 整理・分析して, まとめ・表現している。</p>	<p>探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに, 互いのよさを生かしながら, 積極的に社会に参画しようとしている。</p>

特別活動

本校では以下のように具体的に観点を設定し, 各活動・学校行事ごとに, 十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に, ○印を記入します。

内 容		観 点	評 価
学級活動		・よりよい生活を築くための知識・技能	○
児童会活動			
クラブ活動	クラブ	・集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	
学 校 行 事		・主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度	

## ● 観点別学習状況の評価について

観点別学習状況の評価とは、学習指導要領に示す目標の実現状況がどのようなものであるかを、観点ごとに評価し、児童の学習状況を分析的に捉えるものです

### 「知識・技能」の評価の方法

例えばペーパーテストで、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスをとりながら、その結果を評価する方法が考えられます。また、児童が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなどして、実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくこと等が考えられます。

### 「思考・判断・表現」の評価の方法

ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられます。

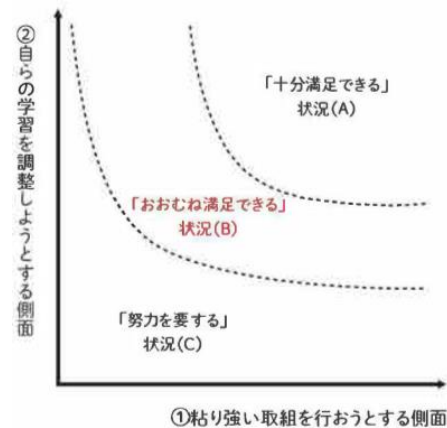
### 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童による自己評価や相互評価等の状況を、評価を行う際の材料の一つとして用いることなどが考えられます。「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行います。つまり、ほかの観点の評価がそれほどでもないのに、この観点の評価だけが優れているとか、その逆の状況は考えにくい、ということです。

### 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

「主体的に学習に取り組む態度」は、① 学習に粘り強く取り組む側面と、② 自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められています。

この二つの側面は、両方がそろうことで、この観点の評価が「おおむね満足(B)」や「十分満足(A)」と評価されることになります。



### 「自らの学習を調整しようとする側面」とは……

自分の学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの“意思的な側面”のことです。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていきます。評価に当たっては、児童が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりします。

本校ではこれらを踏まえた学習評価を行い、日々の指導に生かすことと併せて、個人面談等の場や『通信簿』で、お子様の学習状況をお伝えしていきます。

『その②』に続く